

一般質問

6月定例会



内藤 眞一 議員

Q10連休対応の 総括は

3月定例会で10連休対応について質したが、特に問題なしとの回答だった。

しかし実際には、住民から「仕事で町営バスを利用するため、10日も止まれば困る」という声があった。

本場に住民の立場にたつて考えていたのか。

A 支障なく運営

町長 山崎 英樹

住民生活に大きな混乱の無い10日間だったと思う。町営バ



乗客を待つ町営バス

スの運行についてご不便を掛けたい。今後の課題としたい。

Q 防災訓練の内容は

6月2日に防災訓練が実施されたが、報告書を作成するための訓練だったのか。

また、「警戒レベル」という新しい避難情報が伝えられたが、町民に理解されていたのか。

適切な情報提供により、起こる被害を想定した「本気で取り組む」訓練を計画すべきではないか。

本場に現在の訓練で良いのか。

A 訓練を検証したい

町長 山崎 英樹

今回の防災訓練のねらいは、正確な情報収集を行い、確実に伝達することだった。

そのため、避難所での報告書作成は、訓練の根幹のひとつと考えていた。報告書をしっかり検証し、問題点や反省点を今後の訓練に活かしたい。

また、新しい警戒レベルなどの情報を周知徹底したい。

Q 早急な通学対策を

児童・生徒数の減少から、一人で歩いて通学する児童・生徒がいる。できる限り通学バスに乗せる方が安全だと思う。

また、学校統合を検討する時期が来ているのではないか。

A 安全安心を第一に

教育長 矢飼 斉

学校統合の際の約束で、スクールバスを運行している地区がある。バス利用者より遠いところから徒歩や自転車通学している児童・生徒がいる。



徒歩や自転車での通学は、心身の発達や体力、忍耐力、思いやりなどの育成につながっていると思っているが、児童・生徒の登下校は安全安心が第一であり、保護者の意見を伺いながら検討したい。

A 統合は議論が必要

町長 山崎 英樹

教育、学校の在り方については、議論が必要な時期にあると認識している。

学校統合より、どんな人材を育てたいか。そのためにはどんな教育が必要か。どんな教育の場が必要であるかが、議論のスタートだ。



一般質問

6月定例会



伊藤 好晴 議員

Q カフェイン過剰摂取防止を

カフェインの過剰摂取は、吐き気や意識の低下、心肺停止状態になる場合もあるとのこと。5年間で101人が搬送され、内3人が死亡した(日本中毒学会調査)ということである。エナジードリンク(カフェインを大量に含む)の過剰摂取には注意が必要である。

町内で容易に購入できることがわかった。本町の児童・生徒がどのくらい摂取しているか把握しているのか。エナジード

A 町ぐるみで機運を盛り上げる

教育長 矢飼 斉

発育段階にある児童・生徒のカフェイン過剰摂取は、身体に悪影響があると考えている。児童が校内で摂取している状況はないが、家庭での状況はわからない。高校生の摂取量は確認できないが、校内・校外にかかわらず摂取していると考えられる。

学校教育で指導・防止するのには限界がある。家庭内での予防策・指導も大変重要であり、一緒になって取り組む。



家庭学習の支援や公民館を核とした社会教育をしっかりすすめる、町ぐるみで健康な子供を育てる機運を一層すすめていきたい。

Q 高校生まで医療費無料化を

怪我や病気などの医療費は、家庭にとって大変な負担となる。家計のことを気にせず、医療機関に通わせたいという親の願いは切実である。

高校生の医療費無料化は、子育て支援にとどまらず、少子化対策、飯南高校の存続についても有効な手段と考える。さまざまな効果をもたらすと思われるので、導入するべきと考えるがどうか。



飯南病院の玄関

A 振興計画で検討

町長 山崎 英樹

第2次総合振興計画を策定中で、検討すべき項目の一つと認識している。学校給食の無償化への意見も含めて検討する。皆で考えていきたい。

「子育て世代が住みたい田舎日本」の本町として、子育てしやすい町づくりをすすめていく。